

2015.3.25



# 医療教育開発センター ニューズレター

徳島大学大学院  
ヘルスバイオサイエンス研究部  
医療教育開発センター

## 1 巻頭言

## 2 「医療基幹教育」の提案

## 3 在宅医療を考える

## 4 蔵本キャンパスでともに学ぶ ～基礎的・汎用的能力の育成～

## 1 巻頭言



### 医療基幹教育

～医療基盤教育から専門職連携教育へ～

医療教育開発センター長 赤池 雅史

近年の医療教育は、「何を教えるか」ではなく「何ができるようになるか」を重視する「アウトカム基盤型教育」へと大きくパラダイムシフトしようとしています。その中で医療人が身につけるべきアウトカムとして、専門的能力と共に基礎的・汎用的能力の重要性がクローズアップされるようになりました。

基礎的・汎用的能力の例として、中央教育審議会は、コミュニケーションスキル、論理的思考力、問題解決力などの汎用的技能、リーダーシップ、生涯学習力などの態度志向性などを含む「学士力」を提言し、経済産業省は「社会人基礎力」として、前に踏み出す力(アクション)、考え抜く力(シンキング)、チームで働く力(チームワーク)の3つを示しています。

基礎的・汎用的能力に関する大学教育(学士課程)については、従来、初年次を中心として教養教育が担うと考えられてきたのではないのでしょうか。そしてその基盤教育の上に専門教育を載せるというコンセプトでカリキュラムが構築されてきたと思います。しかしながら、両者の連携不足やミスマッチがしばしば指摘され、さらには、医療安全の観点から医療現場で重視されているノンテクニカルスキルは、基礎的・汎用的能力と共通する部分がきわめて多いことから、この能力の修得は、大学教育における低学年での教養教育(基盤教育)のみではなく、専門教育さらには卒業後の生涯教育においても継続的・発展的に行われるべきであると考えられます。

このような状況を背景に、医療教育開発センターでは医学部・歯学部・薬学部と連携して専門職連携教育を推進することで基礎的・汎用的能力の育成に努めてきました。さらに、徳島大学では各学部学科のディプロマポリシーやカリキュラムポリシーに基づいた教養専門一体化教育を推進するため、平成28年度から教養教育院(仮称)の設置を予定しています。そして、この度2月1日付で、その準備室の医療系基盤教育分野教授に当センターの副センター長である岩田貴先生が就任しました。この分野が関与する医療系初年次からの基盤教育と、これまで医療教育開発センターが進めてきた専門職連携教育を連携させ、さらには卒業後の生涯教育にも繋げていくことで、医学部・歯学部・薬学部それぞれの医療系教育の横の連携をはかりつつ、初年次から専門教育・生涯教育へと縦に貫く教育、すなわち「医療基幹教育」を構築できるのではないかと考えられます。医療教育開発センターは医療系基盤教育分野と密接に連携して、医療系総合キャンパスを有する徳島大学オリジナルの医療教育の確立に貢献していきたいと思っております。



## 2 医療系基盤教育と専門教育・専門職連携教育をつなぐ「医療基幹教育」の提案 ●●● 医療教育開発センター副センター長 岩田 貴

### ■ごあいさつ

平成27年2月1日付で教養教育院(仮称)設置準備室医療系基盤教育分野教授を拝命いたしました。これまで医療教育開発センター副センター長として、各医療系学部、卒後臨床研修センター、キャリア形成支援センターや地域医療支援センターと協力しながら、質が高く安全な医療を提供できる人材の育成を目指して、スキルラボを活用したシミュレーション教育やon & off-the-job trainingを、卒前・卒後を通して実践してまいりました。今後は、診療・研究のニーズと教育のアウトカム的一致を常に検証しながら、全ての医療職にとって必要な基礎的・汎用性能力の教育を発展させ、優れた医療人の育成に貢献したいと思います。

### ■目指したい「医療基幹教育」

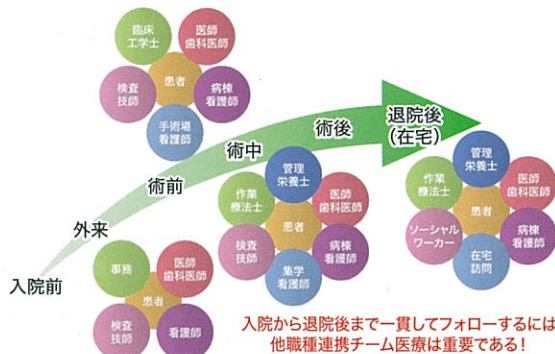
実際の医療現場では様々な職種がそれぞれのスキルを駆使して、情報を共有し連携して治療を行う、チーム医療が基本です。患者さんを中心としたチームは外来受診時から退院後の外来や在宅フォローまでに刻々と変化します。これらの多様なチームを機能させるには医療技術、手技などのテクニカルスキルの他に、リーダーシップ、コミュニケーション、状況把握、決断、個人的限界(危機的・疲労状況)の管理・対応などのノンテクニカルスキルが重要です。これらは、基礎的・汎用的能力と共通する部分が多く、その修得には、職種間連携教育(Inter Professional Education; IPE)が有効であると言われています。

本学では、1年次に「チーム医療入門蔵本地区合同ワークショップ」が行われていますが、その後の高学年でのプログラムが不十分なため、例えば病棟実習などの専門教育で、十分に理解できないまま高次元の多職種連携の中に学生が投入される状況がみられています。また、医療技術の進歩に伴い、医療系の卒前・卒後教育では学修すべき内容が高度化し増大傾向にあります。これらにスムーズに対応するためには、医療系教養・共通教育(=医療系基盤教育)が、基礎医療教育を経て臨床医療教育に繋がる専門教育や専門職連携教育と連携することが何よりも重要であると思います。そしてこれらの卒前教育が卒業後の生涯教育にも連続することで「太い幹」を形成し、いわゆる「医療系基幹教育」の構築を目指すべきだと思います。その教育手法も単に知識を詰め込むだけの講義形式の座学ではなく、e-learningなどを活用して事前に授業内容を学修し(予習)、本来の授業ではグループワークや討論を行う、反転授業を取り入れたアクティブ・ラーニングの展開が必要だと思います。

これからも各学部の皆様と密接に連携しながら徳島大学の医療教育の発展に努力する所存です。皆様のご指導・ご鞭撻ならびにご協力をよろしくお願いいたします。



### 医療現場の刻々と変化するチーム



入院から退院後まで一貫してフォローするには他職種連携チーム医療は重要である!

### 医療系基盤教育と専門教育をつなぐ基幹教育へ



### ■大学院教育クラスター

#### ●組織横断型教育クラスターによる大学院教育支援

平成21年度より教育クラスターによる大学教育支援が継続されており、当センターでは6つのクラスター活動を支援しています。

#### ●クラスターコアセミナー:6クラスター合わせて30回以上開催されます。

(詳細:医療教育開発センターHP <http://www.hbs-edu.jp/index.html>)

#### ●ミニリポート:クラスター毎に企画、実施されています。

クラスター	日時	ミニリポート参加人数(人)				
		院 生	学部生	教 員	講 師	計
感染・免疫	H26.10.30-31	11	2	26	1	40
心・血管	H27.1.10-11	13	3	9	1	26
ストレスと栄養	H27.1.20	23	8	7	1	39
肥満・糖尿病	H27.1.23-24	7	0	13	1	21
骨とCa	H27.1.25	14	1	15	2	32
脳科学	H27.1.31	16	10	15	1	42
合 計		84	24	85	7	200







# 3 在宅医療を考える

現代社会において、個々の求める「人生の質QOL: Quality of life」は千差万別です。どこで、どのような医療を受けたいか、どのような人生を送りたいかは一人ひとり違うでしょう。これからの社会問題として見過ごすことのできない「在宅医療」をテーマに2回の講演会が開催されました。毎回地域で活動されている様々な職種の医療者が集い、日頃の悩みや疑問点等、活発に意見交換が行われています。

「在宅医療」は多職種の協力が不可欠です。このシリーズの講演会は地域と協力した勉強会でもあり、現場で活動する方々の意見交換の場面は、学生にとって貴重な学習の機会になります。今後も多くの方々の参加をお待ちしています。

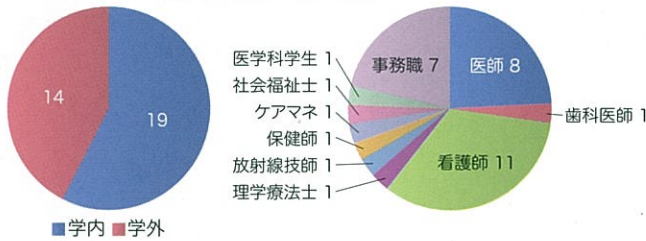
## ■第1回在宅医療講演会 「在宅医療と高度急性期病院との連携」

日時:平成26年9月29日(月)19:00-20:30  
 場所:スキルス・ラボ8(総合研究棟2階)  
 講師:服部万里子先生(公益社団法人 長寿文化協会 理事長)

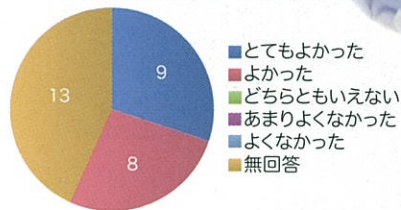
東京渋谷区でNPO法人 渋谷介護サポートセンターを16年前(1999年)に立ち上げ、2000年から在宅のケアマネージメント事業に携わり、現在もケアマネージャーとして病院との連携、在宅ターミナルケアを実践されている服部万里子先生をお招きしました。



《参加者33名の内訳》



《講演はいかがでしたか》



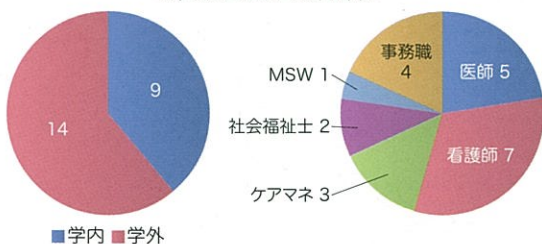
## ■第2回在宅医療講演会 「多職種連携のための在宅がん緩和へのアプローチ～地域づくりのヒント」

日時:平成27年3月2日(月)19:00-20:30  
 場所:徳島大学 スキルス・ラボ5,6(医学部第三、四会議室)  
 講師:市橋亮一先生(総合在宅医療クリニック)

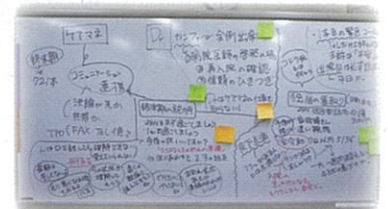
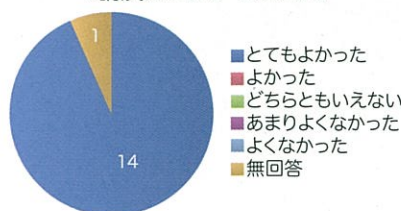
ホームよりも個人宅を主に訪問する、いわゆる「個人在宅」医療。そこに力を注ぎ、地域ぐるみの医療体制を充実させようと取り組む総合在宅医療クリニック代表の市橋亮一先生をお招きしました。医師免許の他にケアマネージャー資格も持つ市橋先生は、複数の医師や看護師等の医療職でチームを組むことで24時間対応の医療体制を作りました。それを支えるベッドサイドカルテによる情報共有の仕組み、地域に開かれた勉強会、独居の看取り、亡くなることの家族への教育、管理栄養士による食支援、音楽療法士の活用など、サービスの質を高めるさまざまな実践ヒントを紹介して頂きました。著書「ケアマネージャー がん緩和 7つのフェーズと21の実践」



《参加者23名の内訳》



《講演はいかがでしたか》



## ■スキルス・ラボ5、6のご案内

可動壁をはずしホールとして利用できます。多人数のトレーニングに便利です。また、アクティブ・ラーニングスペースとして、学習に合わせた様々なスタイルでのグループワーク(議論・討論・まとめ・発表)が可能な机を設置しています。ビデオカメラ、映像モニターで他の部屋と結ぶことも可能です。より効果的なシミュレーショントレーニングを目指して工夫・検討を重ねています。





# 4 蔵本キャンパスでともに学ぶ～基礎的・汎用的能力の育成～

## ●2014 Tokushima Bioscience Retreat

日時:平成26年9月18日(木)～20日(土)  
 場所:リゾートホテルオリビアン小豆島  
 参加人数:学生25名、教員12名  
 特別講演  
 『消化管におけるうまい味受容～脳腸  
 連関による生体恒常性の調節』  
 講師:鳥居 邦夫 先生(株式会社鳥居食情報調節研究所 代表取締役)



## ●第8回チーム医療入門～蔵本地区1年生合同WS～ 「高齢化社会をむかえた医療のあるべき姿」

医療人を目指す学生が相互理解を深め、将来ともに円滑なチーム医療を行える基盤形成を目的として、蔵本地区の1年生全員を対象として毎年行なわれています。

今年が高齢化社会をテーマに取り上げました。

日時:平成26年9月30日(火) 13:00-17:00  
 場所:大塚講堂大ホール 他  
 参加人数:433名(全1年生の99%)  
 演題:高齢者医療の現状と向き合おう  
 講師:服部 万里子先生(公益社団法人 長寿社会文化協会 理事長)



## ●第4回How to医療コミュニケーション教育(HBS研究部FD)

現在、医学科、保健学科、歯学科、薬学部で行われている模擬患者参加型教育の充実を目指して、模擬患者、教員がともに学び、意見交換を行いました。

日時:平成26年12月20日(土)13:00-16:00  
 場所:日亜メディカルホール  
 参加人数:34名  
 演題:模擬患者参加型教育を成功に導くために  
 講師:吉田 登志子 先生(岡山大学 医療教育統合開発センター)



## ●第7回医療教育講演会

日時:平成27年3月2日(月) 15:30-17:00  
 場所:医学部臨床第二講堂(臨床講義棟2階)  
 参加人数:学生123名、教職員9名  
 講師:市橋 亮一 先生(総合在宅医療クリニック 代表)  
 演題:在宅医療～高齢者の看取りを中心に～



## ●高校生医学体験実習

毎年スキルス・ラボにて多くの高校生を対象に、医学への関心向上を目的とした「医学体験実習」が行われています。指導補助として医学部医学科の学生が参加することもあります。高校生と先輩学生との貴重な交流の機会になると同時に医学生生の学習の機会にもなっています。

- 徳島県主催 高校生医学体験実習:  
平成26年8月6日(水)-7日(木)参加72名(学生補助11名)
- 香川県丸亀高校医学体験研修:平成26年10月1日(水) 参加47名
- 高松第一高校:平成26年10月2日(木) 参加22名
- 徳島県立城東高校:平成26年10月23日(木) 参加13名
- 岡山県立玉島高校:平成26年10月28日(火) 参加2名
- 城東高校:平成26年11月15日(土) 参加15名
- 徳島県立脇町高校:平成26年12月16日(火) 参加5名
- 徳島市立高校:平成26年12月24日(水) 参加44名(学生補助4名)



## ●学会活動

- 第27回日本内視鏡外科学会総会(H26年10月2～4日 盛岡)  
 『内視鏡外科手術におけるoff-the-jobトレーニングを科学する』  
 岩田 貴<sup>1,2)</sup>、島田光生<sup>1)</sup>、栗田信浩<sup>1)</sup>、吉川幸造<sup>1)</sup>、東島 潤<sup>1)</sup>、西 正暁<sup>1)</sup>  
 徳永拓哉<sup>1)</sup>、高須千絵<sup>1)</sup>、江藤祥平<sup>1)</sup>、中尾寿宏<sup>1)</sup>、赤池雅史<sup>2)</sup>  
 徳島大学外科学<sup>1)</sup>、徳島大学大学院HBS研究部医療教育開発センター<sup>2)</sup>
- 第14回日本PC連合学会四国ブロック支部/第21回四国地域医学研究会学術集会・合同集会 ミニレクチャー(H26年11月16日 徳島)  
 『これからの医学教育～総合診療への期待～』  
 赤池雅史 徳島大学HBS研究部医療教育開発センター  
 ●平成26年度大学教育カンファレンス in 徳島(H26年12月26日)  
 『中心静脈カテーテル(CVC)留置術個別講習会の検討』  
 岩田 貴、長宗雅美、赤池雅史  
 徳島大学HBS研究部医療教育開発センター

- 『医療系学科1年生合同ワークショップの効果の実践～8年間の振り返りより』  
 長宗雅美、岩田 貴、辻 暁子、石田加寿子、東 瞳、赤池雅史  
 徳島大学HBS研究部医療教育開発センター  
 『授業のアクティブラーニング化は学生の自学自習を促進するか?～反転授業の場合～』  
 三笠洋明<sup>1)</sup>、赤池雅史<sup>1,2)</sup>、西村明雷<sup>1)</sup>  
 徳島大学医学部教育支援センター<sup>1)</sup>、徳島大学HBS研究部医療教育開発センター<sup>2)</sup>
- 第250回徳島医学会学術集会(H27年2月1日)  
 『反転授業を応用したクリニカルクラークシップ学生対象の縫合実習の試み』  
 岩田 貴<sup>1,2)</sup>、赤池雅史<sup>1)</sup>、長宗雅美<sup>1)</sup>、島田光生<sup>2)</sup>  
 徳島大学大学院HBS研究部医療教育開発センター<sup>1)</sup>、徳島大学病院消化器・移植外科<sup>2)</sup>

## ●用語mini解説

**アウトカム基盤型教育**  
 『修了者が到達すべき目標を明確化し、これらの目標を達成できるような教育の提供を、説明責任を持って行うもの』と定義されている(Smith SR 2009、大西2013)。コンピテンス(学習アウトカム)の設定、何を学ぶか(内容)・どう学ぶか(方法・方略)、その評価からなる。内容と評価が目標と一致しない、態度や深い理解に関する評価ができない等の従来の教育方法の欠点を基に、評価に重点を置き、教育の質保証を目指している。

## ●お知らせ

- 2015Tokushima Bioscience Retreat  
 日時:平成27年9月17日(木)～19日(土)  
 場所:リゾートホテルオリビアン小豆島  
 担当:医科学教育部
- 第9回「チーム医療入門」蔵本地区1年生合同WS  
 日時:平成27年9月30日(水) 13:00～17:00